

**山崎郷土叢**

NO. 45

50.4.25

兵庫県栗原郡  
山崎町教育委員会内  
山崎郷土研究会  
電話2000

### 近世初頭の山崎藩(六)

島田 清

二、池田輝澄時代 (続5)

前稿に掲げた河合又五郎の渡辺鞆負次子源太夫殺害事件と、鞆負の嫡子数馬が姉婿荒木又右衛門の助太刀を得て伊賀の上野で仇討ちした一件とは、「存探叢書」の「寓簡」に次のごとく記されている。

備前志雄家中、河合又右衛門子又五郎ト云者、津田ノ某ノ子ヲ害シ、立退ニ依テ、又五郎親又右衛門閉門ス。然後、御旗本ノ士、坂部三十郎・久世三十四郎・安藤治右衛門三人ヨリ使ヲ以テ、忠雄ヘ、又五郎人ヲ誤リ、立退ニツキ、親又右衛門閉門被仰付、又右衛門許ルルニ於テハ又五郎可出、トノ事ニツキ、

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

近世初頭の山崎藩(六)	島田 清	一
河東の愛宕山について	福井託二	三
近世初期の山崎町古地図を見て	堀口春雄	五
幻の西蓮寺院	福井託二	八
近作十首	故安井俊二	九
安井大人の死を悼む		一〇
故安井俊二君を悼む	福井託二	一〇
郷土だよ		一一

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

忠雄諾シテ、又右衛門ヲ被許。其後、又五郎、終ニ不出ニ依テ、忠雄ヨリ使シテ断有。三人ノ衆、返答ニ曰ク、又五郎事、何方ニ居所不知。三人ノ衆、返答事ハ、此方ニ申請ル、トノコトニ付、忠雄ヨリ、又右衛門コト許スニ於テハ、又五郎可出トノ断ニ依テ、又右衛門ヲ許ス。又五郎在家不知ニ於テハ、又右衛門ヲ可請取ト也。三人衆返答ニ、又右衛門コトハ存ヨラス。此方へ申請ル、トノコトニ付、使再三ニ及然延ニ、忠雄、俄重病ニ依テ卒去ニテ、右ノ公事止ム。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

池田忠雄の寵臣、渡辺鞆負の二男、源太夫を殺害して逃げた河合又五郎引渡しの訴えは、寛永七年（一六三〇）十月、忠雄より幕府へ出された。幕府では、御三家ならびにその他の諸大名の取りなしで、河合半左衛門は池田家へ引渡し、旗本の安藤治右衛門と、これを助けた久世三四郎・阿部四郎五郎は寺入りをさせる、という案を出した。しかし、忠雄は、「又五郎を引き取らなければ」と承知しなかった。

寛永八年はこうしたうちに暮れた。年がかわると、正月二十四日、前將軍秀忠が五十四才で薨じた。ついで、四月三日、忠雄が痲痘にかかり、三十一才で卒した。臨終にあたり、又五郎を討ち取るよう輝澄に遺言した、という。忠雄と同腹の兄忠継は既に亡く、また、弟政綱も寛永八年七月に死んで、残っているのは輝澄・輝興二人だけである。輝澄は、そのうちの長兄で、このとき、二十七才になっていた。忠雄の意志をついで河合又五郎引取りの願書を池田忠雄の家老荒尾内匠とともに幕府に出したのは、この年の六月であった。

輝澄は、このころ、東照神君の外孫として池田家の浮沈を双肩になつていた。忠雄の家督相続についても、幕府からは三歳の勝五郎光仲の後見を命ぜられたが、輝澄は、そのまま勝五郎に仰せつけられるよう願ひ出、その通りになった。「寓簡」には、これらについて次のよう

## 食料品一切卸問屋

# 三 寺田商店

山崎町紺屋町 電②〇〇〇五

に述べている。

「忠雄家督ノコト、勝五郎幼稚ニ依テ、弟石見守ニ御預ケ、後見可仕コトヲ被仰付。石見守申上ル。御懇意ノ宰相コト、宰相ト思召ニ（ママ）於テハ、幼稚ニテモ勝五郎ニ其儘可被下コトヲ願フ。則、石見守、願ノ通り、勝五郎三歳ニテ家督被仰付。則、勝五郎家督ノ御礼等相スム。然ル処ニ、輝澄、右ノ忠雄公事廢リタルヲ引請、右三人へ使ヲ以テ公事起ル。三人衆、右ニ承引無之ニ依テ猶以テ不用。三人、弥欺クニ付、輝澄書付ヲ以テ、酒井讃岐守殿へ、三人任我意、又右衛門ヲ渡ザルコト、是非、押テ可請取コトノ意趣ヲ達ス。讃岐守殿、此義、大成ル重コトニ依テ、返答遅々ニ及。其中、御三家ヨリモ、御扱ニ堪忍ノコトアリ。輝澄承引ナシ。讃岐守殿返答遅々ニ付、輝澄、此事本懐ニ至ラザルニ於テハ宿へ帰



ラザル心底ニテ、讃岐守殿へ伺公ス。讃岐守殿、対面ニ及ビ、輝澄心底ノ形勢ヲ見、讃岐守被仰テ曰、此事、此老人ニ可被任、先御帰リ有ルベシ、ト挨拶ニ付、帰宅成。然処ニ、尾張大納言義直公ヨリ御書ヲ以テ、今度ノ一卷、对公儀へ御為之事也。堪忍可仕事第一ナリ。輝澄返答ニ申上ルハ、御公儀ニ対シテ御為ノ上ハ奉其意、堪忍可仕トノ事也。然後、御公儀ヨリ三人へ、走込又右衛門事、石見守へ可渡事ヲ被仰付、石見守へモ、走込又右衛門コト、可請取コトヲ被仰渡有。依テ、一門ノ中、池田出雲守長常、又右衛門ヲ請取ル。輝澄ノ曰、本懐ヲ遂ル上ハ又右衛門ニ意趣ナシ。追放スベキニ成。然ル処ニ、峰須賀蓬庵老仰ラレテ、曰、此又右衛門コト、始終六ヶ敷曲者ナリ。予預リ、国本へ遣ベシ、トテ請取、則、家来ニ云付、道中、海路ニテ害、可捨由ヲ不知ス。蓬庵老ハ忠雄ノ勇ナリ。

山崎中央商店街

## 堀口写真館

結婚式場 楠風閣 出張  
農協会館

坂部三十郎・久世三四郎・安藤治右衛門、従公儀、理不尽ノ仕形ニ付、寺入仰付ラルル。其頃、世挙テ、輝澄手柄ノ器量ヲ美歎ス。台徳院様ニモ、石見守、兄弟ノ公事身ニ引請、本望ニ至ル事ノ器量ヲ御感ジ思召ノ由、出入御旗本衆物語リアリ。”(未完)

## 河東の愛宕山について

福井 託 二

去る二月十五日老人福祉センターで開催されました郷土研究会主催の斯界の権威島田先生をお招きして県下の古墳と石棺についての有意義な御講演がありました。席上終りに先生との種々質疑応答があり面白く又教へられるところ多大でありました。この時ある人の質問に河東愛宕山頂にある角穴についての話が出ました。古墳らしい石組の散乱はほんとの古墳の残存であろうかとの質問に対し先生のお答へにその実際を見ねば解らないがどうも古墳の石室石棺の類ではなさそうなお答へでありました。これについて私もずっと以前昭和五年頃あそこを興味を以って掘って見ました。その際それ以前に早くも掘った人があるらしく埋土は柔らかく子供の頭程の川石が一ヶと挙大のものが五六ヶ出ました。話の種になるようなものが何か出ないかとその下を五十糎ばかり掘りましたが

何もありません。石室、石棺のあった様子は全然ありませんでした。それに石棺ならばそのあたりに副葬品のかけら位あってもと探しましたがありません。見晴しのよい山頂であり古墳造築には格好の位置であります。それに天正の昔秀吉が布陣した山頂でありますのでその際に崩れかかった墳土も石も取り払ったとも考へられます。私の計ったところでは四十種四方位の角穴ですこの時点には何も見つかりませんでした。それから山の西側中腹に登二枚程の大きさの池があつて古くから太閤池と呼んでいる。これも天正時代に造つたかどうか解らない。今は池は泥で埋つてしまひ明治時代頃の深みはない。下方にある畠灌漑用水を得るために造つたらしいが今は水量も涸れてしまつてゐる。この太閤池も少年時代恐る恐る悪友と二人で凌へて見ましたが古録が一丁出たきりである。うつそうと樹木の茂つた昔は兎も角今は水は物の役にも立ちません。天正の昔は水量も豊かに湧いて多くの人馬に役立つたものを。然しこの山をとり巻く小川の流ればまだ沢山流れて多数の兵馬に充分だったかも知れません。頂上からの眺めは素晴らしく昔は当方より見安く先方より難く絶好の物見の役の要点だったと思ひます。この頂上に攻撃軍の秀吉の旗じるしを空高くなびかせるのに工合のよい位置にあるこの角穴はその旗竿立てに掘つたものとしたら私の推理はうま過ぎるでしょうか。頂

## 和洋酒食料品販売

# 八百福商店

山崎町山田 TEL②〇四一三

上はこの様に天正八年の長水攻めに物見として大いに利用価値があつたと思ひます。長水城は真向いに目と鼻の距離です。山頂から見ると長水城二の丸の南急斜面から流し下したと云う何十俵かの白米。米に見へてよし。水の流れと見へてよし。まだまだこれだけの貯へはあるんだと見せかけ背水の策を考へても結局農民から狩り集めた命の兵糧米もろとも城に火を放つて落城してしまつた。五十波の登り口あたり今でも焼けただれた米が時々発見されるそうだがそれは食糧糧に火を放つた名残米だと云つてゐるが真疑の程は決し難い。それは後世の作り話しとでもして置こう。話を前に戻して山頂の角穴は秀吉軍の立てた戦陣吹き流しの竿穴かそれとも又五世紀頃の小児の石棺の遺構か、はたしてそのどちらであろうか。

終

## 近世初期の山崎町古地図を見て

堀口 春雄

昨年の夏、岡山大学の図書室には池田家文書として山崎町の古い地図があると聞いていたので、一度それを見たくわしく見たいと思い、出来れば複写させてもらったら町史編輯の良い参考ともなろうと、編輯員一行四人が町教育委員会の車に乗せてもらって、岡山へ向った。八月中旬の暑い日であった。今は思いがけずも故人となられた安井俊二氏と宇野先生、町教委の大谷氏と私の四人であった。車中色々と言話をしながら大学へ着いたのは十時過ぎであった。図書館へは、あらかじめ電話で交渉がしてあったのであるが、古文書の管理はなかなか厳重で、見学の理由目的等を話し署名までしなければ見せてもら

## 新才会ピアノ教室

山崎町庄能一一九ノ一一  
電話 ② 三六八六

えない有様であった。併しそれだけの値うちは充分ある立派なものであった。池田家文書は特別室になっていて、宍粟郡関係の古文書が集積されていた。拝見すると言っても限られた時間では到底充分見る事は出来ないの、一枚はコピーをとってもらい、あとは写真撮らせてもらおうと思ったが室内では暗く、館外へ持出す事は許されませんので、しかたなく出来るだけ明るい処の壁に押しつけて先生方に持って頂き写す事にしました。地図は畳三帖敷ぐらいの極採色の非常に細部まで描かれた立派な物で、宍粟郡全体の地図が数枚と山崎町地図が二枚写す事が出来た。昔とは言え全く正確に絵描かれていて今の様な測量器も無かった時代に良くまあ、これだけ細かく書けた物と感心致しました。山崎町の地図など現代の航空写真と寸分変らない程型を整えていて、里数もほぼ正確に記されている。一枚の地図は松平周防守の家中地図で、慶安二年山崎から石州浜田へ転封になる時池田家に申送られた物と想像される。もう一枚は延宝年間池田数馬の家中並に城郭地図で、よりいっそう正確な様に思える。松平周防守は寛永十七年池田郡澄家中お家騒動で郵澄が領地没収されたあとえ泉州岸和田から山崎城へ転封された家中で五万石であった。そこで此の山崎城郭地図を見て一番に気づく事は、町家が武家屋敷にすっぽり取囲まれている。で、他に類例の無い珍しい城下町

である。通扶城下町と言えは中心に城があつて、そのぐ  
るりに武家屋敷が有つてその外に町人街があるのが普通  
であるが、しかも城は小高い平山城になつて居るのが最  
も多い。併し鹿沢城は本丸が町人街より底地に有り、町  
全体が城になつて居る。今も其痕跡を残して居るが、切  
岸と称する断崖の上が台地になつて居り背後に山が有り  
古城篠の丸になつて居る。町全体が天然の要害になつて  
居る。切岸と言ふのは古代損保川、伊沢川の洪水氾濫期  
に出来た波ぎわの岸で、これは段、金谷、上比地あたり  
にも其の痕跡が見られる。山崎町の場合は上寺から高野、  
今宿、清水口を経て西鹿沢まで続いている。その岸に添  
つて武家屋敷かぐるりと町を取巻き、その中心が商人街  
になつて居る。くわしく言ふと鹿沢は勿論の事青蓮寺裏  
から出水町、富士野町、鴻ノ口旭町、大才町と武家町で  
あり北魚町の恵美酒さんから西上之町（元山崎）は皆武  
家敷になつて居る。本町西町の山側は上之町の武家屋敷  
と背中合せになつて居る。又伊沢町の東側も出水町の武  
家町と背中合せで、泉竜寺も随陽寺も当時は武家屋敷で  
ある。一寸口では説明しにくいが町の道路筋も現在の道  
筋とは多少異つて居る。これは元禄の大火によつて地株  
が変り道路も今とは大分違つて来ている。幕末の本多家  
の地図によれば現在の道路とほとんど変り無いが、元禄  
以前は道路が出水町以北で變つて居る。紺屋町などは袋

## 和洋酒・食料品

# 城内商店

山崎町東鹿沢 電②〇三六九

小路になつて居る。当時の商人街と言ふのは、西新町、  
本町、山田町、福原町、北魚町、寺町の片側、紺屋町、  
伊沢町、茶町、等で他は皆武家町である。鹿沢町は三の  
丸として高禄の侍屋敷で二千八百石の家老岡田竹右衛門  
を筆頭に式百石以上の士分ばかりで、上之町、出水町、  
富士野町は百石から六、七十石の徒士、無足、等の屋敷  
となり、其の外側岸の上へかけて、鴻ノ口大才町今宿等  
は、弓の者、鉄砲の者、長柄の者等の足軽長屋になつて  
居る。又西南の犬の馬場には家老別邸があり其の下には  
弓鉄砲の足軽長屋となつて居る。城は学校が本丸で堀も  
内濠、中濠、外濠と有り、特に学校の南下は当時五間幅  
の堀になつて居り、これは後に本多氏になつてから堀の  
幅の一部が埋められ馬場となり細められて溝川となつた  
のである。松平時代は五間幅の立派な堀で中央にそり橋  
が掛けられ、塗り壁唐破風の番所まで建つて居る。堀の  
下にはやはり馬場が有り、池の端に三層の数寄屋作りの





茶屋などが建って居り、馬場の西には御蔵部屋が建っている。現在の中学校運動場あたりは築山や泉水の有る御庭園で、啓明寮あたりはお馬部屋や中間長屋がある。現在では一寸想像し難い城郭である最上山の麓は東は寺町でお寺が七ツも並んでいる。上之町は三筋の道路に別れて皆武家屋敷である。柳生宗也などと、どこかで聞いた事の有りそうな侍いの屋敷も見られる。紅葉山の東には塩硝蔵があり、荒神さんのあたりは松平氏の別邸隠居所がある。主席家老二千八百石の岡田竹右エ門の屋敷は今の天理教の所で其の裏は妙勝寺となっている山門が南向の城下から入る様になっている。清水口見付は京口として山崎町の表玄関に当る所だけに、枳形の広場が有り番所もあり。清水の湧き口に小さな溜池があり南側には簡めの物頭らしい三百石取り滝三郎右エ門の屋敷が有、永観橋の内側には、勢隠しの互い違ひになった掛壁の城壁が有り、さすがに守備は万全を期している。外

側は三間半の断崖になっているからそれだけでも守備は堅い、衣坂には道路は無いが其の少し北側に細い道が斜めに降りてあり。その小路が出石へ続いていたのである。溝川は今も昔も変わりなく、荒井堰から灌漑用に取水されているのは随分古くからであつたらしい。此の如く商人街を城郭内に包つまれている例は少ないが、戦国の昔、北陸の或大名が敵の攻撃を受け、商人も百姓も一丸となつて籠城し、長い間頑張り続けて遂に其の守備をまっとうした例もあるので、長期戦には商人の経済力や農民の人手が大いに役立ち有利であつた例も有る。

以上の様な有様で、古地図の写しが私の手元にもあるので、くわしく御覧になりたいお方は何時でも来て御覧下さい。

猶此の地図の調査に當つて一所に行動致しました安井俊二氏は、先般はからずも急逝され故人となられました事は誠に残念で、町史編輯中ばにして世を去られた氏の心中を思うと、ひとしを心残り、又氏の深い研究にまつ処多大であつただけにおしまれてなりません。安井氏は郷土史研究家の大先輩で有り、又郷土研究会の会長でもあり、常に私達を指導して下さいました。口数こそ少ない御方でしたが其の深い知識は底知れぬものがあり、おしい御方を失つたと悲しみと共に、末筆ではあります

が氏の御冥福を心よりお祈り申し上げます。

# 幻の西蓮寺(完)

福井詫一

去る四十八年の春この誌上を二度も拝借して申し上げし通り昔日山崎町に存在していた西蓮寺と云う寺のことであるが、今迄に判明しているのは維新当時、いや今日でも町の古老の覚えてゐる鴻の口町大神宮一帯の空地を西蓮寺畑と云って耕作されていたそうである。寺の有った地処は今山崎ボーリング場になつてゐる場所である。これを建てる折、玄関口にあたりにもその西蓮寺井戸と云われたものがあつたが、工事のため埋められた由である。寺域も相当広く今の太神宮の裏手にかけての地所かそうである。この寺は文久三年に焼失してしまつたのである。この事は前誌で申しあげたが今宿河原の墓地に珍らしく西蓮寺門徒のただ一つの証明出来る墓石が立っている。それには天保二年十一月西蓮寺と彫名してあり、横に嘉蔵と書いてある。以来私は興味を以つて調べていたのであるが、一ヶ月程前福井政一より拝借した昭和四十八年版の宍粟郡誌を読んでいるうち偶然にもこの西蓮寺の記事が一寸書いてあつたので一応左に抜き書いてみることにする。郡誌本文二十頁の十五行目に(寛永八年(一六三一)池田輝澄更に佐用郡を領し所領六万一千石となる。

和洋酒  
食料品卸問屋

## 三輪又商店

TEL② 二一七三

山田町の北に高家町を造る。この町には輝政の臣福原小左エ門住せしにより、福原町と改む。その外高家村(庄能)の折れ口才蓮寺の前面籠の町の裏方に当りて与力町、歩行町、足軽部屋を設く)とあつて歴然と才蓮寺の実在したことを証明している。位置も寛永時代と文久時代も同じである。ただ西の字が郡誌では才となつてゐるが、語義から考えても西の方が正しいように思う。西と才との字違いは通念上ままあることである。西蓮寺がようやく解つて今宿河原の天保二年十一月西蓮寺嘉蔵の苔むした墓石も喜んで仏縁にゆれ動いてゐるだろうと思う。これで幻の寺ではない筈である。

三月中旬

終



# 近作十首

故安井俊二

山崎物故会員 追悼歌会 二首

遙かなりと思へば遠しいまそここにと

思へば近し逝きて亡きひと

真向ひに坐りてぼつりと話す君

いまのうつつに顔ちくるあはれ

探す本ひと夜をかけて見当らず

遠く消えゆく救急車のサイレン



書道用品  
結納用品

## 志水成文堂

山崎町さつき通り一丁目  
電話 ②〇五四七・四三〇五

輝ける空仰ぐこと稀になり

かくあくせくと一生は過ぎむ

あれもこれも手の廻りかねはね返る

無言の抗議にいささかたじろぐ

「類我集」出版記念会

懐旧の歌そこばくと目につきて

同感をするわれも老いたり

いささかのなぐさめ心

あはれとも朝々をのむ錠剤いくつ

物価高口々に云う今にして

新築家屋そこにもここにも

朝光のうすき舗道に落ちている

菜っ葉の霜はいみじく光る

絶詠（本年一月二日新年歌会）

うつろの眼ハニワは持ちて

何もかも見ていたりけむ千年のとき

## 安井大人の死を悼む

木々の枝先もふくらみ春近い二月十七日、郷土研究会の会長である安井俊二氏の告別式が行なわれました。

突然の訃報に茫然とし、ただ立ち竦むだけです。故安井会長は先代寅一氏と相たすさえ永年郷土研究会の有力なメンバーとして郷土の文化遺跡の照会、歴史の研究に取り組み、殊に春秋二回発行のこの会報についても編集責任者として献身的に努力され、今回で四十五号を迎えることとなりました。

また故人は、山崎の歌道発展にも多大の功績があり、文化人としての活躍も顕著なものであります。去る一月二十六日の総会で役員も決まり、会報発行、古典復刊係、見学旅行係、遺跡調査係と専門部制にして、今後故安井会長の意を継ぐべく役員一同努力をいたしたいと存じておりますので、会員皆様の一層のご協力をお願いいたします。



純喫茶

# インゼル

山崎町山田  
TEL②〇九〇九



## 故安井俊二君を悼む

福井 託 二

二月十六日の日曜は朝から吹雪でした。丁度今日は私達、恒例の同窓会の開催日で、西町の村上説二さん宅会場へ朝十時半頃参りますと、もう十四、五人見えていました。会員諸君の顔が緊張感一ぱいです。私を見るなり急いで傍に来られた幹事役の村上さんがいきなり私の手を握んで、二、三日前あれ程元気で郷土研究会の会長を心よく引き受けて頂き、又今日の同窓会にも例年の如く出席して大いに談合歓談をやりたいと申された安井君が突然の心臓発作にて夕べ急逝された由を聞かされて、私は夢かとはばかり驚天しました。例年の会合には欠かさず参会されて居り席上又誰とでも愉快に談笑されいつ迄で



も話はずんでいました。

二、三日前郷土研究会の会合にも君は早く出席され役員  
の改選やらの末重要な会長に就任して頂いたばかりであ  
る。こんな急逝をされようとは思ひもよらぬことである。  
いつもご多忙の身をこの会のためには献身的ご努力を給  
わり、全員等しく感謝していた次第です。その高潔な人  
格その円満なるお人柄は全員又追慕するところでありま  
す。

安井君は又余暇を得ては郷土歌壇に活躍もされ御造詣も  
深く山崎歌壇のよき指導者でもありました。故人を想え  
ばその温情寸時も断れかたきものを。ましてや同窓机脚

を並べた昔日の友、然  
もたのしかるべき同窓  
会の当朝に君の悲しき  
急逝をきかんとは。  
噫々安井君早春梅花に  
魁げて何んぞ逝く。君  
の薫香いく久しく同窓  
の文に止どまらんこと  
を合掌す。

二月二十日



## 郷土だより

### ○山崎文化連盟が発足

町内の各種文化団体を結集して、相互の連携と親睦を  
はかり、山崎町文化の興隆に寄与しようと三月一日に結  
成総会が開かれました。

十七団体のうちに郷土研究会も加入し、文化施設の促  
進と設備の充実、文化財の保存などの面で、連帯して今  
後の活動に取り組みたいと存じますのでお知らせします。

### ○山崎町歴史民俗資料館開館

町内の民俗資料を収集保存して一般に公開し、町民の  
学術、文化の向上と郷土愛の昂揚をはかることを目的に  
民俗資料館が五月一日から開館されます。農耕用具、養  
蚕用品、古文書類、酒造用品などが展示してありますの  
で、どうぞご来館ください。

○郷土研究会年会費が二百円になりました。

去る一月二十六日総会で承認されましたのでよろし  
くお願いします。





山崎町は、その豊かな自然環境と、  
 伝統的な醸造技術によって、  
 独自の酒造りスタイルを確立し、  
 国内外に知られるようになった。  
 この酒は、その独特の風味と、  
 爽やかな口当たりが特徴で、  
 多くの人々に愛飲されている。  
 山崎町の酒造り文化は、  
 長い歴史を誇るが、  
 常に新しい技術を取り入れ、  
 品質の向上に努めている。  
 この酒は、単なる飲み物として、  
 地域の誇りと伝統の結晶として、  
 大切に守られてきた。  
 今後も、その伝統を継承し、  
 より良い酒造りを目指して、  
 努力を続ける。

郷土だより

山崎町の酒造り文化は、  
 長い歴史を誇るが、  
 常に新しい技術を取り入れ、  
 品質の向上に努めている。  
 この酒は、単なる飲み物として、  
 地域の誇りと伝統の結晶として、  
 大切に守られてきた。  
 今後も、その伝統を継承し、  
 より良い酒造りを目指して、  
 努力を続ける。

酒造り 山崎町

スエヒロ  
オイマツ

山崎町 電話2345